

# 令和2年度第2回京都市市民活動総合センター運営委員会議事摘録

日時：2020年12月10日（木） 18：30～19：35

場所：京都市市民活動総合センター ミーティングルーム

（敬称略）

出席委員：小暮座長、杉本副座長、河西、竹田、永田、西野、日下田、福原、藤本、森野、吉田

欠席委員：大石、小林、鈴木、菱川、平井

事務局：西、平尾、久内

## （1）主催者側(事務局)より挨拶

## （2）座長開会の挨拶

座長より今期新委員として吉田委員の紹介を行う前に、議案について進める旨とした。

## （3）I.令和元年度センター運営に関する評価報告について（資料1）

事務局より令和元年度事業に対する評価委員会からの評価結果を報告した。

- ・2年前から評価Aがとれるように運営委員会での協議等してきたが、令和2年度では交流・連携の分野でA判定をとることが出来た。その他の分野ではB判定だった。
- ・評価方法については2年前に運営委員会で意見をいただき京都市に提案していたが、先日永田課長に確認したところ、「評価方法の検討については関わっている。しかし、具体的に評価の方法については、どう対応していくかなど抜本的な改善は進んでいない。」との回答を得た。
- ・令和元年度の達成度の評価については、従来の評価制度に基づいて評価を行われた。

事務局からの補足

- ・令和元年度の評価について、A評価をいただけたことは喜ぶところであるが、自分たちが頑張ったところが適切に評価されているかが判らない。これまで積み上げてきた実績の結果がA判定だったのかも知れないが通常通り運営した部分のため、実施者としてはびんと来ない結果だった。
- ・まだまだ評価委員会と京都市ときょうとNPOセンター同じトップを見ているかという課題が継続して残っている感がある。
- ・しみセンの成果は京都市、京都市民に帰属するものであるため、全ての事業は京都市と協議の上で行うことが大前提である。京都市は評価委員に対して、事務局であっても、第三者的立場ではなく、きょうとNPOセンターのパートナーとして評価受ける側ということを改めて認識して欲しいと京都市をお願いをした。

## II.令和2年度上半期事業実施報告（資料2・3・4・5）

事務局より各分野における報告があった。

### 【情報収集・提供】分野

- ・上半期においては、情報コーナーの有効利用として IT 設備の充実をはかり、オンライン会議の利用スペースの構築を実施した。そのために必要な機材を揃え、現在も週1~2件の利用がある。
- ・コロナの対策として、オンラインミーティング等の機材の貸し出しサービスを行っている。
- ・コロナ関連情報に特化サイトの構築として、コロナほっとかないポータルサイト（通称：コロほっぽ）を開発し、急遽5月にオープンした。
- ・情報提供として、コロナ禍において、各団体が困っていること・欲している情報に重きを置いて、職員総出で情報収集した。また、時期的に事業年度終了後の手続きや総会の運営方法についての相談が多かったため、コロほっぽを使い、どうしたらよいか等の情報発信を行った。
- ・HPにおいても、トップバナーにて Q&A や相談窓口の情報などを置くようにレイアウトを駆使した。
- ・HP 及び Facebook のアクセス数、リーチ数については、4月~11月までの月別データを資料4にて参考に挙げている。HP、Facebook 共に4月から9月までの上半期は前年に届かなかった。特に Facebook については、掲載する団体の活動が自粛等で中止が多く、それが要因となって減っていると推察できる。
- ・また、HP、Facebook 共に10月以降昨年度より、アクセス数・リーチ数ともに上がってきている。このデータにより、これから情報を HP や Facebook までリーチする傾向が高まっていることが推察できる。
- ・情報ポータルサイトのアクセス数は前年より増加傾向だった。特に6月はコロほっぽへのアクセスが多かったことから、コロナに関する情報を収集する人が多かった。
- ・コロほっぽへのアクセス数について、8月頃までは多かったが、9月から若干減少気味となっている。
- ・上半期の大きな成果としては、重点項目として挙げたように新型コロナ禍の中で市民活動を行う方々に新型コロナに対して、必要な情報を迅速に提供したこと。そして、情報を発信するツールを新規開発し、情報発信力を高めていったことがあげられる。

### 【相談】

- ・窓口での対応件数は新型コロナの影響で4、5月は激減している。特に5月は閉館していたこともあり、来館者数の減少は致し方ない。一方、電話・メールでの相談件数は例年よりコロナ対応での件数も有り、増加している。
- ・例年6月は年度終了後の手続き等の相談があるが、今年度はコロナ禍での対応に関する内容での相談・連絡が増えた。
- ・一般・認証/認定分野について、総数では前年、前々年を極端に大きく上回っている。
- ・相談内容は総会の実施方法、各種手続き窓口、会計残余関係として年度末決算の方法、及び役員の資格責任等についての内容が特出していた。

- ・また、総会や解散について等、団体の運営について危機感を持った相談が多々あった。
- ・重点項目として Web を使用した講座実施がある。8、9月に会場参加と並行したオンラインでの講座配信を行っており、実施時は約半数がオンラインでの参加であった。

## 【育成】

### 《市民活動支援チャリティ公開講座について》

- ・10月11日(日)「過去との対話 アートから未来を読む」と題して、やなぎ みわ氏を講師に招き、実施した。来場型にて75名の参加と、29,000円の寄付があった。
- ・市民公開講座は、2月にも一つ、「新型コロナウイルスから人々を救うダチョウたち」と題して、京都府立大学塚本学長を講師に招き実施予定である。来場型で200名を想定しているが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じてオンライン開催を検討する。また、講座では市縁堂2020の参加団体向けとして寄付を募る予定である。
- ・これまでは、市縁堂実施までに集まった寄付を団体に渡していたが、今後は市縁堂実施後も当該年度に実施する公開講座は市縁堂に参加した団体へ集まった寄付を提供する形に変更していく予定である。

### 《市民活動支援クリスマス・チャリティ・コンサートについて》

- ・12月5日(土)に来場型実施した。参加124名、84,000円の寄付が集まった。
- ・コロナ感染拡大防止対策として、前2列の座席を削減、受付時にはソーシャルディスタンスの確保、入場時には検温・手指の消毒の徹底をしながら運営した。
- ・演奏側の京都ブラスバンドにおいても、マスクをしながら演奏するなど、対策をとりながらの演奏となった。
- ・コンサート、市縁堂の双方共に京都市地下鉄等の掲示板にてポスター掲示やチラシ配架の広報を実施した。
- ・昨年度は12万円弱の寄付が集まっており、昨年と比べると寄付額は少なく、参加人数も昨年対比で少ないが、一人当たりの寄付金額としては昨年を上回っている。

## 【交流・連携】分野

### 《市縁堂について》

- ・12月6日(日)に新型コロナの状況下において、従来通りの実施は難しい為、参加団体も参加者(視聴者)も全てオンライン参加型で実施した。
- ・参加人数は当初100名を予定していたが、80名の参加があった。
- ・オンラインでの開催と共に寄付募集についてはクラウドファンディングを初めての試みとして実施した。
- ・クラウドファンディングについては、目標額50万円を達成しなければ受取れないシステムであり、結果最終日に53万円の寄付があり、達成することができた。
- ・クラウドファンディングの達成については、各団体が一生懸命努力して寄付を募るといった団体育成を図る目的も有していた。
- ・今回の参加団体について、これまで市縁堂に協力頂いた団体すべてに声をかけ、コロナ禍の中で頑張っている内容を市民に広く知ってもらえる機会である市縁堂

- に参加されるかのアンケート調査の結果、参加希望の団体に協力を求めた。また、あまり知られていないが、コロナ禍でも地域に根付いて頑張っている団体にも注目したいとの意向にて、各地域 13 所ある全いきいき市民活動センターに声をかけ、その中から「北いきセン」・「岡崎いきセン」・「東山いきセン」の 3 センターに各地域で頑張っている関連先団体の紹介(推薦)にて、各いきせんと共に参加協力をいただいた。
- ・参加団体は、各カテゴリー(環境・人権等)に、4~5 団体でグループ編成をして、オンラインプレゼン時には、実行委員がファシリテーターとなり、発表を実施した。
  - ・しみセンのミーティングルームを Zoom オペレーションセンターとして運営し、団体プレゼンはライブ放映にて、しみセン交流フロアのモニターでも配信を実施した。

#### 【施設管理】

- ・5 月からコロナ対策として、受付にはパネルを設置、フロアでの椅子の削減、ミーティングルームでは人数制限をするなどコロナ感染拡大防止策を実施している。
- ・ミーティングルーム利用については、情報コーナーと同様に通信設備を整えてオンライン会議に対応する環境を整えた。

#### 【市災害ボランティアセンター】

- ・7 月に九州熊本豪雨災害があったが、新型コロナの完成拡大防止として、県外からのボランティア受入を制限する指示に従い、ボランティアは派遣は行わず、物資の派遣等に切替えて支援を行った。
- ・今年度の役員会は書面決議にて実施された。
- ・7 月に高校生へ向けたボランティア入門講座を京都府立東陵高校にて実施した。福祉ボランティアセンター・伏見区社会福祉協議会・しみセン職員が高校生に向けて災害ボランティアへの関心を高めるための講座を実施した。
- ・10 月には運営委員会、11 月には市災害ボランティア担当者会議を実施した。
- ・担当者会議では、大学との連携について、現在は 5 大学のボランティアセンターと連携しているが、他大学との連携推進を孝策している。また、運営資金について、京都市からの運営費だけでなく市民からもお金を集め運営していこうと地域創造基金の活用を進めている。
- ・12 月には、市区災害ボランティア担当者研修と一般に向けたボランティア入門講座を予定している。

### Ⅲ.令和 2 年度上半期予算執行状況報告(資料 6)

- ・上半期予算対比では 522,623 円の残であり、執行状況は 98%となっている。  
**※開催後、執行金額(消費税箇所)の修正が有り、別添資料(資料 6 改訂版)を添付**  
修正概要：上半期予算対比 37,994 円の残額、執行状況 99.8%となる。
- ・超過項目としては、コロナ対策での防唾パネル購入やマスク・消毒液等の雑費があり、未消化項目としては、コロナにて実施できなかった講座等の諸謝金、チラシ未発送等の通信運搬費がある。なお、通信運搬費については下期に繰り越す形となる。

#### IV.令和2年度下半期事業実施計画（資料2）

下半期での各分野別重点実施項目は以下の内容とする。

##### 【情報収集・提供】

- ◆オンライン会議の利用機材・設備の充実を図り、さらなるオンラインの活用促進を推進する。

##### 【相談】

- ◆年度内にコンサルテーションブックを作成する。
- ◆オンライン・ウェブ講座のさらなる展開を謀る。

##### 【育成】

- ◆市民活動支援チャリティ公開講座は、当初の予定通り、コンサートを含めて、年度内に4本を実施する。

下半期実施予定：2月13日「新型コロナウイルスから人々を救うダチョウたち」

講師：京都府立大学学長塚本康浩氏

3月実施予定分の詳細は企画内容検討中

##### 【交流連携】

- ◆次年度に向けて、今年度のイベントのオンライン化やクラウドファンディングを活用した経験を踏まえ次年度の実施方法を検討する。
- ◆現行までの各いきいき市民活動センターとの連携をより幅広く推進する。

##### 【施設管理】

- ◆新型コロナ第3派拡大防止での安全策を講じながら施設の運営を進める。

#### (4) 報 告

##### I.上半期コロナ禍でのセンター運営に関する報告事項について

- ・11月上旬にしみセンのミーティングルームを総会開催にて利用した団体から1名、新型コロナウイルス陽性者が出たため、団体より報告を受け、迅速に全館や所轄部署と連携しながら、濃厚接触者の調査及び館内の消毒を実施した。今後も、いつ発生するかわからない事態であるため、より一層感染拡大防止対策を講じていきたい。
- ・後日、この陽性反応者以外は感染者が出ず、陽性反応者も軽症で済んだとの報告があった。

#### (5) 新委員(吉田忠彦委員)の紹介及びご挨拶・コメント

座長より新任委員として吉田忠彦氏(近畿大学経営学部経営学科教授)の紹介があり、吉田委員より自己紹介と共に前職(しみセン評価委員長)に関わって中での評価方法についてコメントがあった。(以下、内容)

吉田委員より：

前年までしみセンの評価委員会委員長でもあったので、評価委員会の評価について少し話をする。嘗て評価方法は、ABCの3段階だったが、5、6年前ごろから現在の5段階評価となった。当初は応援するという意味合いがあり3段階だったが、全体としての位置を示すために下の評価が出来て5段階となった。

また、C段階で「できている」、Bは更に「できている」、Aはエクセレントといった意味合いでの基準としてのポジションだった。それ故に、Bが並んでいるのは全般的に、評価委員会の基準を超えているとの評価であり、評価委員会としては相当高い評価である。どういった基準で評価するのかという部分が、10年余り経ち曖昧になってきたかと反省する部分もある。立場も変わり、皆さんと一緒に京都市に意見をぶつけていきたい。

いきいき市民活動センター(いきセン)は、旧同和地区の隣保館をコミュニティセンターとして発展してきた経緯があるセンターもあり、今後見直しを進めている状況下にある。いきセンは貸館業務がメインで貸館業務と市民活動活性化という2つの軸となる事業がある。その見直しとして、貸館事業費は標準につけるが、市民活動活性化事業費はプロポーザル方式とし、良いものがあればピックアップする形へと変更されることとなった。市民活動総合センターとも連携しながらプラン作りやプログラム作りをやっていく必要があると考えている。

## (6) その他

全体として各報告で委員からの質問・意見を求めた。

委員：しみセンの皆さんすごく頑張っていると感じている。自団体もNPO・NGOと連携している中で話題に上がっているのが、今年度は苦しいと事前に判っていたため緊急支援の助成金等もあり、今年度は何とか乗り切る見通しが立っているが、来年度では殆ど支援は期待できないだろうということ。

来年が今年の反動もありNPOにとって苦しい年となりそうである。しみセンでもNPOのそのような状況は頭の片隅に置いておいていただき、クラウドファンディングなどでのサポートの検討やNPOの状況や動きを見て検討してほしい。

委員：NPO団体にも店舗のように12月に年度を終了する団体は多いか？

委員：それほど多くはない。

委員：今年度までは良いけれど、新年度の計画が立てられないところが多いかもしれない。時間があつたらしみセンでNPOに何が一番必要かアンケートを実施する必要があるかもしれない。コロナ禍において別のニーズが高まっているのかも知れない。

委員：実際、活動の中で半年以上活動停止だったこともあり、学生ボランティアとの関りが途切れていっている。再度つながりを持つのが大変であり、自団体でも先日理事会があり、上半期の振り返りを行ったが、先に話したような来年度の問題がはっきりと見えてきた。他の団体に関わっている人からも同じように共通の問題として、活動が続けられない、資金が足りない、来年続かない、ボランティア・人手が足りない等が出ており、活動が続けられない感が有る。

事務局：今後2月、3月の事業年度終了にむけて、次年度の予算・計画が立てられないといった相談が増えてくると考えられる。解散せずとも、どのような運営方法があるかという相談も増えるだろうと予測している。。

委員：予算削減の中で良く頑張っていると思う。2019年に欲しかったA判定が平尾

さんは複雑と言っていたが、取ることが出来たことは良いと思う。  
しみセンの実施事業は全国のモデルになると思うので、A 判定をもらうに値する価値はある。

来年度は「コロほっポ」で S 判定が欲しい。5 月の閉館から開けて直ぐに特設サイトをオープンしたことは素晴らしいことである。相談事業でも成果が出ており、本当によく頑張っていると感じた。

事務局：コロナ禍は、まだまだ続くと思われる、コロナの影響無しには事業運営は成り立たないだろうと思われる。

次回は 2 月もしくは 3 月の開催を予定しており、次年度の事業計画について、下期の実践を踏まえて With コロナの中での新しい事業の方法を踏まえて、年度計画を立てながら、報告が出来ればと考えている。

## (7) 副座長より閉会の挨拶

以上